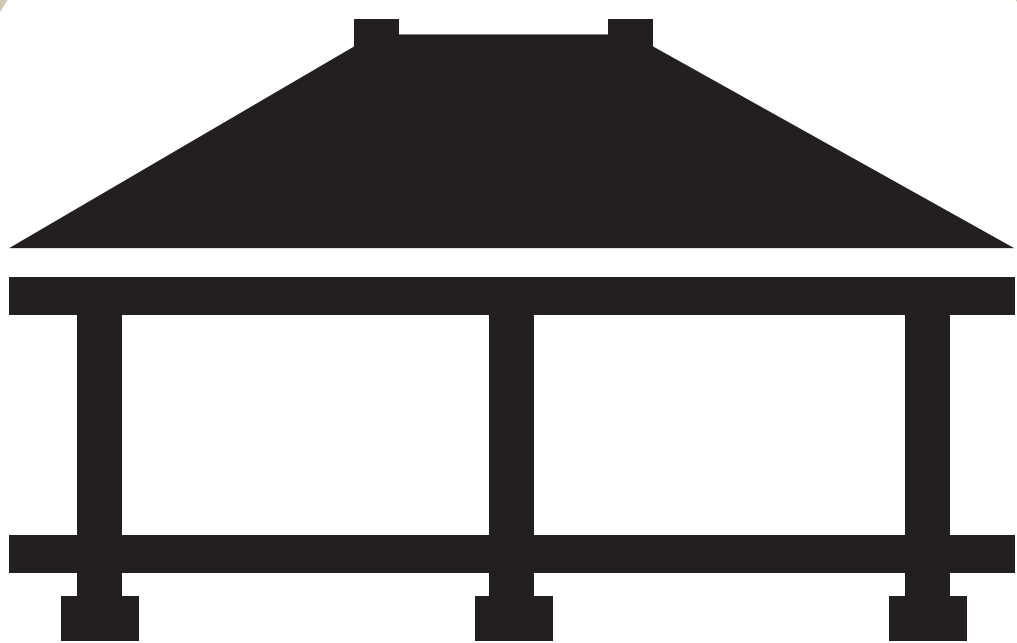


平成26年度 歴史的風致維持向上推進等調査

「地域固有の伝統技術を持った専門家のデータベース整備による技術研修の実践及び伝統技術にかかる相談体制の構築」

報告書 別冊

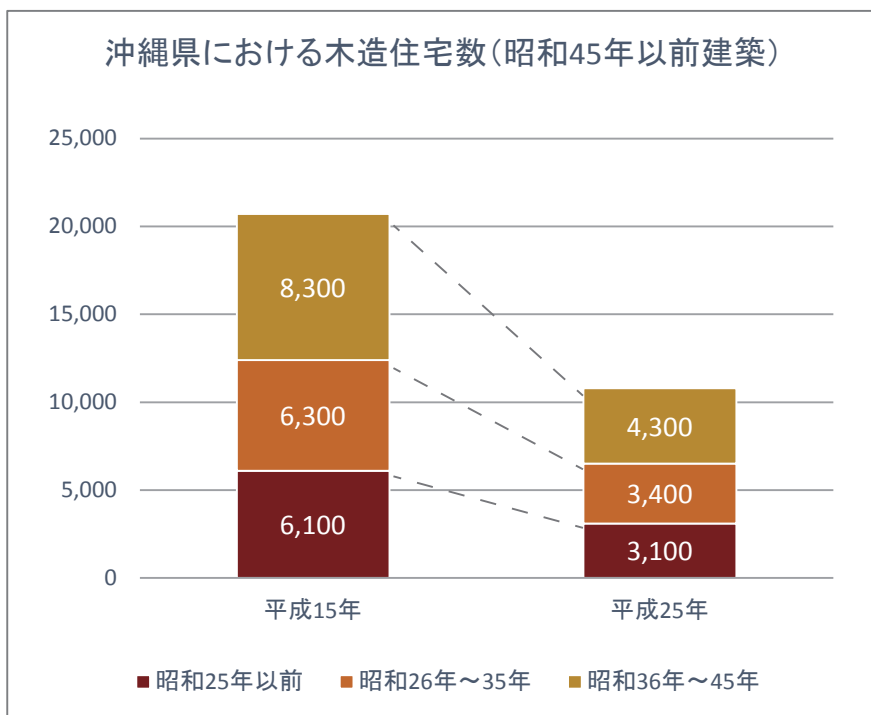
沖繩古民家再生マニュアル



はじめに

沖縄県古民家再生協会では平成 26 年度「歴史的風致維持向上推進等調査」の委託業務において地域固有の伝統技術を持った専門家のデータベース整備による技術研修の実施及び伝統技術に係る相談体制の構築を行った結果、沖縄の古民家が失われる現状を把握し、伝統技術者育成と古民家再生・改修・活用の相談体制の必要性を強く実感しました。また、古民家の存在は沖縄の観光資源として見直され、他府県と異なる木造文化としての価値が高く、沖縄の貴重な財産として歴史的風致維持に貢献しております。しかし、その古民家は老朽化に伴い空き家、または解体され減少の一途をたどっております。そこで、本マニュアルはその失われる古民家の再生・改修・活用を推進するために作成されたものです。

沖縄古民家の現状



沖縄県の木造住宅は先の戦争により、その多くが失われてしまいました。

昭和 45 年以前に建てられた木造住宅の数は、平成 15 年からの 10 年間で半数近くまでも減少しています。

このままでは、沖縄らしい景観をつくり出す重要な要素である赤瓦屋根の木造住宅が無くなってしまいかもかもしれません。

古民家でやりたい
こんなこと！



飲食店

宿泊施設



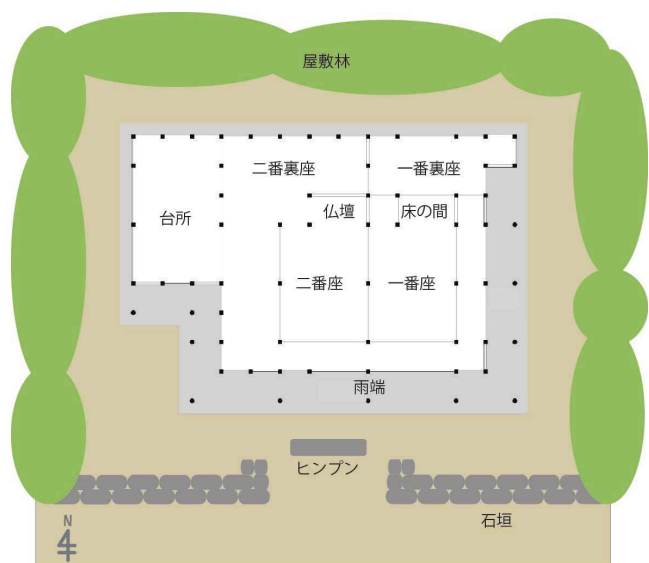
公民館
集会所

写真スタジオ

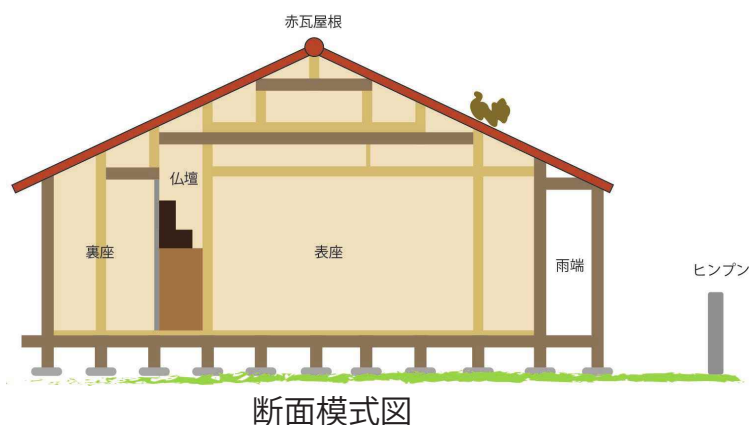
イベント会場



沖縄古民家の特徴



基本的な間取り



断面模式図

沖縄の伝統的な民家には、台風や強い日差しに備える工夫がみられます。

基本的に南向きに建てられ、東から一番座、二番座となり背面に裏座がおかれていました。玄関はなく、大きく開かれた縁側から出入りするのが一般的です。来客を迎え入れるため開放的な間取りとなっており、一番座は客間、二番座は仏間、裏座は家族の寝室や収納部屋として利用されていました。

ヒンブン

敷地に入って正面に置かれる塀。

沖縄では角を曲がるのが苦手と伝えられている魔物が真っ直ぐ家に入って来られないように「邪気払い」の意味が込められている。伝統的な民家には一般的に玄関がないため、通りからの目隠しの機能も兼ねています。



赤瓦屋根

沖縄の土で作られる赤瓦は、通気性・断熱性に優れ、屋根の木構造を湿気から守り、かつ沖縄の強烈な日差しによる建物の温度上昇を和らげる効果があります。

台風で瓦が飛ばされないように漆喰で塗り固められます。



雨端



主に家屋の南面と東面の縁先に柱を立てて軒を深くしたひさし。亜熱帯特有の激しい雨風や強い日差しを遮る知恵がみられます。屋外と屋内の空間をゆるやかに繋ぎ、訪問客とのゆんたくの場でもあります。

屋敷囲い

石や木を用いて家の周囲を囲う塀。フクギなどの屋敷林は、台風などから家を守るための防風や防火の備えにもなっていました。

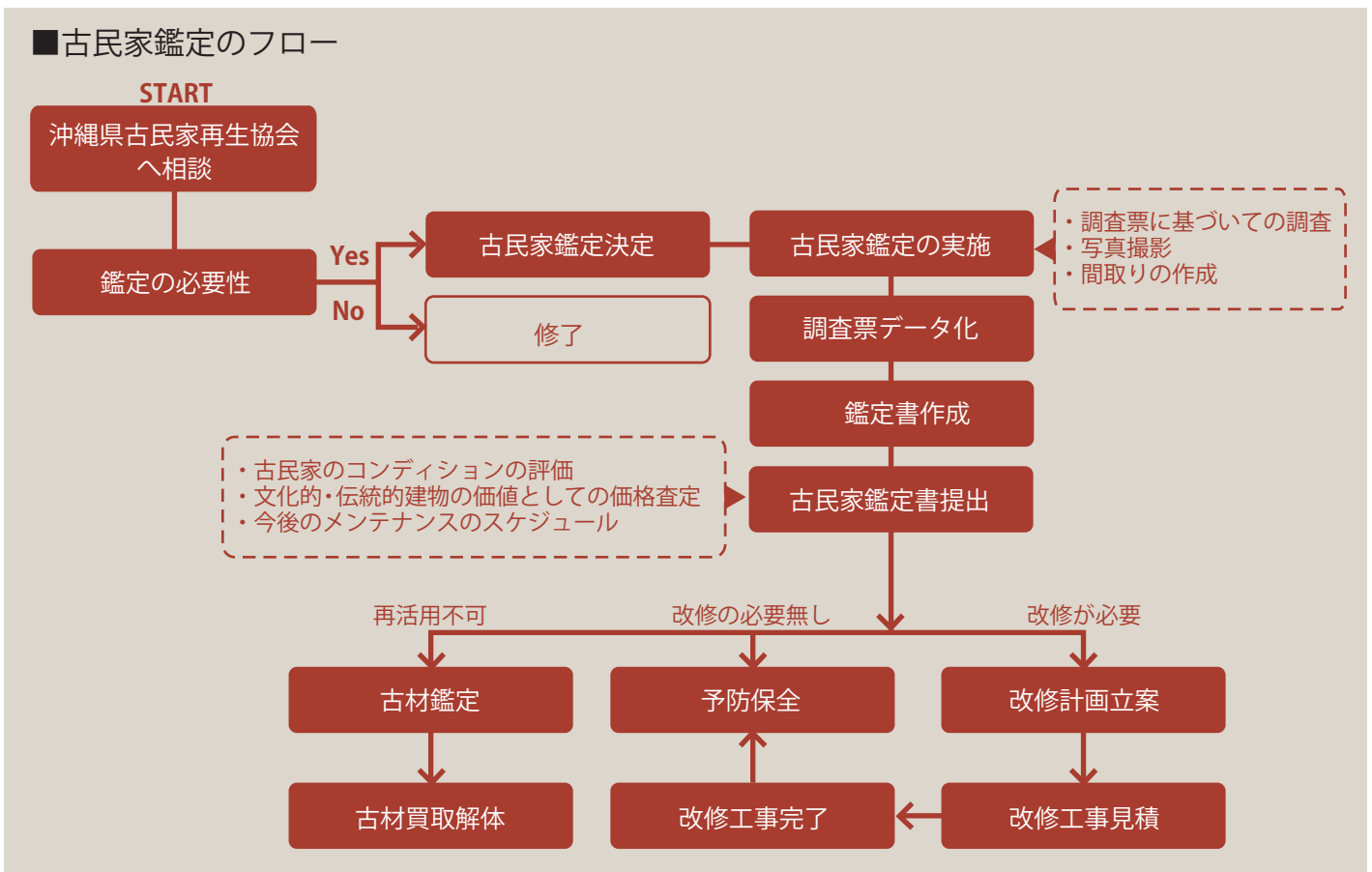


古民家鑑定のおすすめ

1. 古民家物件の診断

古民家再生に入る前に、古民家鑑定により古民家のコンディション診断を行うことをおすすめします。古民家鑑定は築50年以上経った木造軸組み工法の住宅が対象で、鑑定料は一律で10万円（※税別）となります。これにより修繕すべき箇所や、再生・移築を行う際のポイント、解体することになった際も、古民家に使用されていた材のリサイクルが可能か等の把握が行えます。

■古民家鑑定のフロー



2. 改修計画の打ち合わせ

診断の結果、改修が必要な場合は専門業者を紹介し、改修図面の作成、作業方法、手順、スケジュールなどの打ち合わせを行います。

3. 改修作業着工

計画に則って改修作業を進めていきます。

改修 START ▶▶▶

1. 解体工事と老朽物の撤去



2. シロアリの駆除



3. 骨組の補修



4. 建て方



5. 屋根の葺き直し



6. 外壁・床・天井・内壁の改修



7. 塗装・仕上げ



8. 外構の補修

1. 解体工事と古材の選別

まず、古い家屋の解体作業を行います。床板・天井板・壁板を撤去し、柱や梁など構造材の状態をチェックします。状態が良く、そのまま活用できるものや補修を行えば使える部材と、老朽でもう使えない部材とを選別します。



▲ 屋根瓦の撤去



▲ 床板の撤去



▲ 梁・柱の状態チェック



▲ 活用可能な赤瓦の確保

2. シロアリの駆除

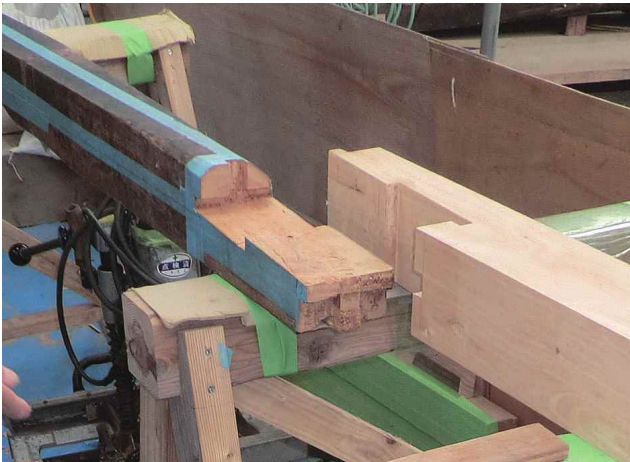
建物の軸組材解体後、床下土間と建物周辺に防蟻剤を散布し土壌処理を行い、再利用木材・新木材にも防蟻・防腐剤を塗布します。

防蟻・防腐剤の散布 ▶



3. 骨組の補修

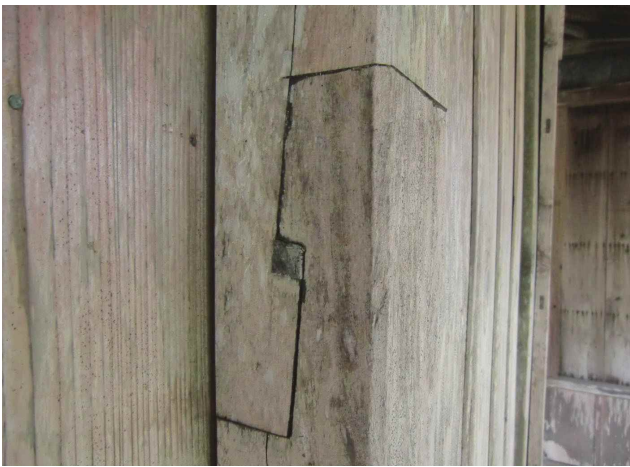
活用できる古材の中でも、シロアリの被害や部分的に腐っている場合は新材で補修する必要があります。仕口や継手の技術を使い分け、古材を有効活用することでコストの削減にもなります。



▲ 古材補修（金輪継ぎ）



▲ 古材補修（鎌継ぎ）



▲ 継ぎが施された柱



▲ 継ぎが施された柱

様々な仕口・継手の種類

【鎌継ぎ】

2つの材うち、一方に鎌のような突出部をつくり、もう一方にはめこむ継ぎ方。



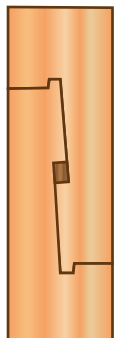
【雇い】

2つの材の間に他の材（雇い材）をはめこみ接合する手法。



【金輪継ぎ】

上下材を同じ形に加工し、継手中央の側面から栓を打って締め付けて継ぐ手法。



4. 建て方

礎石、土間の不陸を修正した後、古材を有効に利用し補修が終わった軸組材を建てていきます。



▲ 基礎となる礎石



▲ 建て方の様子



▲ 建て方の様子



▲ 建て方の様子



▲ 古材の活用



▲ 建て方完了

5. 屋根の葺き直し

再利用できる瓦は古い漆喰や汚れを落とし使用し、瓦が不足した時は新瓦を準備して葺き直します。



▲ 赤瓦葺き



▲ 漆喰塗り

6. 外壁・床・天井・内壁の改修

古い木造住宅は既存のままでは構造的に弱い部分があるので、壁の中や天井裏、床下等の見えなくなる場所で構造補強を行います。



▲ 構造補強



▲ 天井補修

7. 塗装・仕上げ

塗装は古い木材の色に合わせた「古色塗り」にする方法や、塗装をせず新しい木材の木目を生かす方法もあります。



古色塗り ▶

完成



古民家の活用事例



沖縄そばのお店 しむじょう

国指定登録有形文化財。敷地内には築150年余の石垣や樹齢100年余の椿の木が残されています。

沖縄県那覇市首里末吉町 2-124-1



屋宜家(やぎや) 沖縄そばと茶処

国指定登録有形文化財。主屋、アサギ、井戸、ヒンプン、石垣が登録されています。敷地内には主屋とアサギ(はなれ)の2棟が残されています。

沖縄県島尻郡八重瀬町大頓 1172



琉球村

古民家の観賞や工芸体験、伝統舞踊のエイサーなどが体験できるテーマパーク。パーク内では各地から移築した古民家を見ることが出来ます。

沖縄県国頭郡恩納村字山田 1130



ていーだぬやがまやー

古民家の庭および屋外舞台をイベントの実演場所とし、童唄と民話のコンサート、伝統お菓子づくり、お年寄りとの交流会などが行われています。

沖縄県うるま市田場 1093



赤瓦の宿 ふくぎ屋

沖縄の原風景が色濃く残る渡名喜島の集落で島おこし事業として修復された一軒家の宿泊施設。

沖縄県島尻郡渡名喜村 1909



ていーらぶい

浜比嘉島の浜集落内にある古民家食堂。昔ながらのサンゴを切り取った石垣が見られます。

沖縄県うるま市勝連浜 56



Bar ヨナミネハウス

阿嘉島の築約 80 年の古民家を活用した Bar。あえて店内が見えるよう、ヒンプンがとられるなどのアレンジも見られます。

沖縄県座間味村字阿嘉 144



沖縄県古民家再生協会では古民家の鑑定、古民家の修繕・改修・移築の相談、古材の流通促進、古材の買取等の相談などを承っております。

古民家を再生して活用したい方と、職人さんのマッチングなど古民家活用に向けたサポートを行っております。

古民家を持っているが、どうしようか迷っている方、古民家を活用したい方、お気軽にご相談ください。

一般社団法人 沖縄県古民家再生協会

沖縄県宜野湾市上原 2-5-6

TEL : 098)893-9191

FAX : (098) 892-5786

Mail : info@okinawakominka.jp

